

平成27年 7月28日

## 役員会会議次第

日本測量者連盟

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 議 題

(1) 平成26年度事業報告及び決算報告

(2) 平成27年事業計画(案)及び予算(案)

(3) 役員の改選

(4) 約款の改正について

(5) その他

4. 閉 会

(資料 1)

## 平成26年度 事業報告

日本測量者連盟

年 月 日	内 容
平成26年6月16日～21日	FIG総会（マレーシア） 出席者 中堀 義郎（総幹事）
平成26年7月23日	平成25年度 監事監査
平成26年7月30日	役員会 平成25年度事業報告・決算報告 平成26年度事業計画（案）・予算（案） 役員等の改選  FIG総会（マレーシア）等の報告 「FIG2015ソフィア大会」の プレゼンテーション・懇談会 その他
平成27年3月20日	講演会 ①「地球規模の測地基準座標と(GGRF)に関する 国連決議と日本の取り組み」 講師 宮原伐折羅 ②「FIG分科会における活動報告」 4・5・7分科会委員長 ③「FIG Young Surveyors Network と日本にお ける青年測量者の活動」 講師 藤井十章

(資料 2)

平成26年度決算報告

日本測量者連盟

(自 平成26年4月1日至 平成27年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減額	摘要
	(A)	(B)	(B)-(A)	
団体会費	1,288,000	1,288,000	0	研修センター5万, 全測連30万, 測専教10万, 水路協22.5万, 日測協30万, 測技協11.3万, 地調協5万, 日調連15万(8団体) 法人会費 20口(1口5,000円) 個人会費 35口(1口2,000円)
法人会費	105,000	100,000	△ 5,000	
個人会費	68,000	70,000	2,000	
預金利息	500	535	35	
前年度繰越	1,051,388	1,051,388	0	
合計	2,512,888	2,509,923	△ 2,965	

2. 支出の部

科目	予算額	決算額	増減額	摘要
	(A)	(B)	(B)-(A)	
消耗品	10,000	0	△ 10,000	
旅費	876,682	876,682	0	FIG総会・国際シンポジウム(マレーシア・クアラルンプール)
郵送料	50,000	22,488	△ 27,512	請求書・会議案内発送・郵便振替手数料他
会議費	30,000	54,000	24,000	役員会・編集会議等
編集費	200,000	87,000	△ 113,000	JFS・HP掲載原稿料
印刷費	0	0	0	
事務委託費	300,000	300,000	0	日本測量協会へ(事務所使用料を含む)
FIG会費	250,000	0	△ 250,000	FIG本部への納入金(請求書待ち)
分科会費	0	0	0	分科会活動費
資料収集費	0	0	0	資料収集他
雑費	30,000	900	△ 29,100	
予備費	766,206	0	△ 766,206	
合計	2,512,888	1,341,070	△ 1,171,818	

3. 特別積立金

科目	前年度積立金	繰越金	増減額	摘要
積立金	2,000,000	2,000,000	0	東京都民銀行定期預金

次年度繰越金

収入	支出	繰越金
2,509,923	1,341,070	1,168,853

内訳			平成27年3月31日現在 残高
	東京都民銀行(普)	742,701	
	三井住友銀行(普)	1,825	
	郵便振替貯金	424,327	
	計	1,168,853	

監査の結果、適正に処理されていると認めます。

平成27年7月 日

監事

監事

(資料 3)

## 平成27年度 事業計画 (案)

日本測量者連盟

年 月 日	内 容
平成27年6月15日～22日	FIG総会 (ソフィア) 出席者 中堀 義郎 (総幹事)
平成27年7月23日	平成26年度 監事監査
平成27年7月28日	日本測量者連盟編集委員会
平成27年7月28日	役員会 平成26年度事業報告・決算報告 平成27年度事業計画 (案)・予算 (案) 役員等の改選 その他 FIG 総会 (ソフィア) 報告
平成28年3月	日本測量者連盟編集委員会
	JFS 講演会開催 (予定)  ニュースレター発刊 (毎月予定)

(資料 4)

## 平成27年度 予算(案)

日本測量者連盟

(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

### 1. 収入の部

(単位:円)

科目	平成26年度	平成27年度	増減額	摘要
	(A)	(B)	(B)-(A)	
団体会費	1,288,000	988,000	△ 300,000	研修センター5万, 測専教10万
法人会費	105,000	120,000	15,000	水路協22.5万, 日測協30万, 測技協11.3万,
個人会費	68,000	72,000	4,000	地調協5万, 日調連15万(7団体)
預金利息	500	500	0	法人会費 24口(1口5,000円)
前年度繰越	1,051,388	1,168,853	117,465	個人会費 36口(1口2,000円)
合計	2,512,888	2,349,353	△ 163,535	

### 2. 支出の部

科目	平成26年度	平成27年度	増減額	摘要
	(A)	(B)	(B)-(A)	
消耗品	10,000	10,000	0	文房具・封筒 その他
旅費	876,682	377,517	△ 499,165	FIG総会・国際シンポジウム(ブルガリア・ソフィア)
郵送料	50,000	50,000	0	請求書・会議案内発送・郵便振替手数料他
会議費	30,000	30,000	0	役員会・編集会議等
編集費	200,000	200,000	0	JFS・HP掲載原稿料
印刷費	0	0	0	
事務委託費	300,000	300,000	0	日本測量協会へ支払
FIG会費	250,000	580,000	330,000	FIG本部への納入金(27年度、28年度分 27年度の支払いが遅れた為)
分科会費	0	0	0	
資料収集費	0	0	0	
雑費	30,000	30,000	0	
予備費	766,206	771,836	5,630	
合計	2,512,888	2,349,353	△ 163,535	

### 3. 特別積立金

科目	前年度積立金	繰越金	増減額	摘要
	(A)	(B)	(B)-(A)	
積立金	2,000,000	2,000,000	0	東京都民銀行定期預金

平成27年 7月28日

## 役員等の交替について (案)

日本測量者連盟  
(順不同・敬称略)

### 【会 長】

や ぐち あきら  
◎ 矢 口 彰

【(公社)日本測量協会会長】  
(前任者:村井俊治)

### 【副 会 長】

かみ じょう かつ や  
◎ 上 條 勝 也

【(一財)測量専門教育センター会長】  
(前任者:野瀬操)

### 【顧 問】

むら い しゅん じ  
◎ 村 井 俊 治

【(公社)日本測量協会前会長】

### 【監 事】

つ ざわ まさ はる  
◎ 津 澤 正 晴

【(公財)日本測量調査技術協会理事】  
(前任者:宮崎清博)

### 【編集委員】

各分科会委員長は編集委員を兼ねる

# 日本測量者連盟役員等名簿

平成27年 7月28日現在

(順不同・敬称略)

## 名 誉 会 長

顧 問	井 上 英 二	元 (一社) 地図協会理事長
"	金 窪 敏 知	元 (一財) 日本地図センター理事長
"	中 川 一 郎	元 (公社) 日本測量協会会長
"	大 竹 一 彦	前 (一社) 地図調製技術協会会長
"	村 井 俊 治	前 (公社) 日本測量協会会長
参 与	星 埜 由 尚	(公社) 日本測量協会顧問
"	大 嶋 太 市	法政大学名誉教授
会 長	矢 口 彰	(公社) 日本測量協会会長
副 会 長	上 條 勝 也	(一財) 測量専門教育センター会長
理 事	瀬戸島 政 博	(公社) 日本測量協会専務理事
"	加 藤 茂	(一財) 日本水路協会常務理事
"	高 橋 庄 三	(一財) 全国建設研修センター専務理事
"	大 塚 冀 一	(一社) 地図調製技術協会会長
"	林 千 年	日本土地家屋調査士会連合会会長
監 事	津 澤 正 晴	(公財) 日本測量調査技術協会理事・事務局長
"	岩 崎 昇 一	(一社) 地図調製技術協会理事・事務局長

- 第1分科会委員長  
第2分科会委員長(兼) 中堀義郎 (公社)日本測量協会常任参与  
第3分科会委員長 平田更一 日本大学非常勤講師  
第4分科会委員長 金澤輝雄 (一財)日本水路協会審議役  
第5分科会委員長(測地)宮原伐折羅 国土地理院測地部物理測地課長  
第5分科会委員長(地図)福島芳和 (株)パスコ技師長  
第6分科会委員長  
第7分科会委員長 海津優 国士舘大学非常勤講師  
第8分科会委員長  
第9分科会委員長  
第10分科会委員長  
第11分科会委員長 藤井十章 日本土地家屋調査士会連合会理事

編集委員長 中堀義郎 (公社)日本測量協会常任参与

編集委員 各分科会委員長

総幹事 中堀義郎 (公社)日本測量協会常任参与

事務局長 高橋谷造 (公社)日本測量協会常務理事・事務局長

局員 木下信也 (公社)日本測量協会総務部部長代理



# 日本測量者連盟の約款の一部改正について

平成27年 7月28日

日本測量者連盟約款第12条を次のとおり改正する。

(分科会)

第12条 約款第4条第一号の研究討議のため、連盟に次の11分科会を置く。

第1分科会：専門職の実務

第2分科会：専門職の教育

第3分科会：空間情報の管理

第4分科会：水路測量

第5分科会：測位と測定

第6分科会：応用測量

第7分科会：地籍測量と土地の管理

第8分科会：空間の計画と開発

第9分科会：不動産の評価と管理

第10分科会：建設の経済と経営

第11分科会：青年測量者ネットワーク

(改正理由)

世界測量者連盟（FIG）のYoung surveyors networkに対応する分科会の設置に伴う改正

(改正点の概要)

(改正前)

連盟に次の10分科会

(改正後)

連盟に次の11分科会

(改正後)

「第11分科会：青年測量者ネットワーク」を新に追加

平成 27 年 7 月 28 日

2015 年 FIG 作業週間ブルガリア大会報告

日本測量者連盟総幹事  
中 堀 義 郎

2015 年における国際測量者連盟 (FIG) では最も大きい催しである作業週間が、5 月 17 日から 21 日までブルガリアの首都ソフィアで開催された。これに参加したので、以下の通り報告する。

1. 概要

(ア) 開催場所 会議が開催された場所は、市の中心部に近い国立文化宮殿 (National Palace of Culture) である。国立文化宮殿は、共産党政権時代に造られ、名前のとおり大きくて立派な建物で、主会場となった 7 階ベランダからは市内が広く見渡せる。

(イ) 日程 作業週間は 5 月 17~21 日で、会期の初日と最終日は FIG の最高議決機関である総会 (General Assembly)

が開催され、議決権を持つ会員協会及びオブザーバーとして連携会員、学会会員及び法人会員等が出席して、FIG の運営に関する議論が行われた。日本からは、会員協会である日本測量者連盟の中堀総幹事、連携会員である国土地理院測地部の宮原物理測地課長が出席した。

18 日~20 日は、開会式に続いて、全体集会、専門分野ごとに分かれて技術発表

が行われるテクニカルセッション、分科会毎の年次会合、会員種別毎のフォーラム、UN-Habitat と FIG の共同セッション等が開催され、全体で 320 編以上の発表が行われた。日本からは、テクニカルセッションで 2 編の論文発表があった。

(ウ) 参加登録者 70 カ国から約 900 名が参加した。中でも、ナイジェリアからは例年通り群を抜いて参加者が多く、227 名を数えた。欧州では、西欧諸国の参加が多く、東欧ではブルガリアと国境を接するギリシャ、セルビア、ルーマニア以外の国からの参加者は少なかった。アジア地域からは、ブルガリアと国境を接するトルコが最も多く、

日時	日曜日	Time	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
	5月17日		5月18日	5月19日	5月20日	5月21日
9:00~12:30	総会1部	9:00~10:30	開会式	全体集会2	全体集会3	会長会議
12:30~13:30	ランチ	10:30~11:00	休憩、展示会開会式	休憩	休憩	休憩
13:30~17:00	総会1部	11:00~12:30	全体集会1	テクニカルセッション	テクニカルセッション	総会2部
20:00~	歓迎会	12:30~14:00	ランチ	ランチ	ランチ	ランチ
/		14:00~15:30	テクニカルセッション	テクニカルセッション 会員協会フォーラム	テクニカルセッション	総会2部 閉会式 送別会
		15:30~16:00	休憩	休憩	休憩	
		16:00~17:30	テクニカルセッション	テクニカルセッション	テクニカルセッション	
		20:00~	基金ディナー	分科会ディナー	ガラディナー	

次いで中国、マレーシア、インドネシアの順で、日本からは、日本測量者連盟の総幹事と日本土地家屋調査士連合会 2 名、連携会員の国土地理院から 1 名、法人会員のリプロから 1 名、合計 5 名が参加した。

表 1. 10 名以上の参加者があった国と参加者数。

地域	国名	参加者数	地域	国名	参加者数
欧州	ブルガリア	73	アジア	トルコ	65
	ドイツ	36		中国	42
	オランダ	19		マレーシア	18
	ルーマニア	19		インドネシア	15
	フランス	14		レバノン	11
	ギリシャ	14	アフリカ	ナイジェリア	227
	スイス	14		ガーナ	14
	デンマーク	13	大洋州	オーストラリア	13
	フィンランド	13	北米	米国	12
	イタリア	13			
	イギリス	12			
	スウェーデン	11			
	セルビア	10			

## 2. 総会報告

初日は 51、最終日は 56 の会員協会代表が出席して総会は開催された。ここでは総会の主な議事について報告する。総会の詳細な議事録は、

[http://www.fig.net/organisation/general\\_assembly/agendas\\_and\\_minutes/2015/minutes.asp](http://www.fig.net/organisation/general_assembly/agendas_and_minutes/2015/minutes.asp) を参照願いたい。

### (ア) 会員の異動

#### ① 会員協会

次の 3 つの組織の新入会が認められた。

Colombian Society of Surveyors

Distinctive Engineering Group, Rwanda

Licensed Surveyors Association of Ghana

次の 2 つの組織が 3 年以上の会費の滞納で除名された。

Ordre National des Geometres du Cameroun

Tunisian Association of Chartered Surveyors

#### ② その他

連携会員、法人会員及び学会会員の入退会について役員会から報告があった。そ

の中には、連携会員に国土地理院測地部、法人会員に(株)リプロの入会も含まれ、新入会員に入会証が手渡された。

#### (イ) FIG の活動計画 2015－2018

FIGの今後4年間の活動計画についてポツイオウ会長から概略次のような説明があり、承認された。

○2015年～2018年の4年間の活動の全体テーマは次の通り。

Ensuring the Rapid Response to Change (変化への迅速な応答を確実にすること)

Ensuring the Surveyor of Tomorrow (次代を担う測量者の確保)

○FIGのビジョン

FIGのビジョンは、我々の急速に変化している複雑な世界に対して創造的で信頼でき優れた現実的な解決策を提供し、測量の有用性について誠実さと自信を持って行動し、これらの言葉を実行に移すことによって社会、環境及び経済を支える、近代的で持続可能な測量専門職を目指すことである。

○全地球的、地域的、局所的な環境の中でのFIGの役割

毎年恒例の会議、地域会議、ワークショップなどの会議の開催、分科会、ネットワーク、タスクフォースの活動を継続する。全地球的な取り組みとしては、会議やワークショップを開催し、国連の機関、世界銀行、IAG、ISPRS等の測量と関連ある国際的な専門機関との連携し持続可能な開発課題(貧困問題、市街地開発、気候変動等)に取り組む。地域的な取り組みとしては、地域の専門家の団体と協力し、人材育成を推進する。局所的な取り組みとしては、FIGと持続可能な連絡体制を確立し、FIGのガイドライン等を提供し測量者を訓練し、FIGの会員増を図る。

○FIG内部の組織改革

- ・分科会活動の強化を図るため、タスクフォースを設置する。
- ・FIGと法人会員の関係を強化するため、タスクフォースを設置する。
- ・学会会員と連携し査読付きの雑誌を導入するため、タスクフォースを設置する。

○会長と4人の副会長の役割分担

#### (ウ) 各分科会の活動計画 2015－2018

第9分科会を除く各分科会と青年測量者ネットワークの委員長から、今後4年間の活動計画等の説明が行われ、承認された。各分科会は、ワーキンググループ(WG)を設置して活動を行っているので、これを見れば、FIGの分科会が力点を置いている技術分野のほぼ全容が理解できる。以下に各分科会と青年測量者ネットワークに設置されたWGの構成を示す。

第5分科会委員長の宮原と総幹事の中堀は、それぞれCommission5のWG5.3とCommission2のWG2.2のメンバーとなった。宮原委員長は、7月28、29日にシンガポールで開催されるFIG Commission5とIAG、ICG共催のセミナーで講師を務めることになっている。

## **FIG Commission 1- Professional Standards and Practice**

Chair: Mr. Brian J. Coutts, NZIS, New Zealand

### **WG 1 Ethics**

Chair: Gary Strong, UK

### **WG 2 Women in Surveying**

Chair: Robyn McCutcheon, Australia

Chair: Winnie Shiu, Hong Kong

### **WG 3 International Boundaries**

Chair: Don Grant, New Zealand

### **WG 4 Forum on Engaging Private Practice**

Chair: Malcolm McCoy, Australia

### **WG 5 Forum on Mutual Recognition**

Chair: Kate Fairlie, Australia

## **FIG Commission 2 Professional Education**

Chair: Ms. Liza Groenendijk, GIN, Netherlands

### **WG 2.1 Educating the surveyor of tomorrow**

Chair: Dr.-Ing. Fahria Masum, Technical University Munich

### **WG 2.2 Innovative teaching and learning**

Chair: Dr. Audrey Martin, Dublin Institute of Technology

### **WG 2.3 Demand for and supply of professional education**

Chair: Dr. Nadezda Kamynina, MIIGAİK

### **WG 2.4 Accreditation and quality assurance**

Chair: Prof. Alias Abdul Rahman, UTM

## **FIG Commission 3 – Spatial Information Management**

Chair: Mr. Enrico Rispoli, CNGeGL, Italy

### **Working Group 3.1 - SIM Infrastructure**

Chair: Hartmut Mueller, Germany

### **Working Group 3.2 – Technical Aspects of SIM**

Chair: Ioannidis Charalabos, Greece

### **Working Group 3.3 – 3D Cadaster (Joint WG Commission 7)**

Chair: Peter Van Oosterom, The Netherlands

### **Working Group 3.4 – Crowdsourcing & VGI supporting SDI**

Chair: Sagi Daylot, Israel

## **FIG Commission 4 – Hydrography**

**Chair:** Angela Etuonovbe (Nigeria)

**WG 4.1:** Standards and Guidelines for Hydrography

Chair: Peter Barr(Australia)

**WG 4.2:** Maritime and Marine Spatial Information Management

Chair: Dr. Jonathan Li (Canada)

**WG 4.3:** Blue Economy

Chair: Gordon Johnston, MRICS (UK)

### **FIG Commission 5—Positioning and Measurement**

Chair: Volker Schwieger

**WG 5.1:** Standards, Quality Assurance and Calibration

(David Martin, France)

**WG 5.2:** 3D Reference Frames (Nic Donnelly, New Zealand)

**WG 5.3:** Vertical Reference Frames

(Kevin Kelly, USA / Dan Roman, USA)

**WG 5.4:** GNSS (Neil D: Weston, USA / Sue Lynn Choy, Australia)

**WG 5.5:** Multi-Sensor-Systems (Allison Kealy, Australia /

Guenther Retscher, Austria / Joint with IAG /Com. 6)

**WG 5.6:** Cost Effective Positioning (Leonid A. Lipatnikov, Russia)

### **FIG Commission 6—Engineering Surveys**

Chair: Ivo Milev

**WG 6.1** Deformation Monitoring and Analysis

Chair: W. Niemeier

**WG 6.2** Engineering surveys for design, constructive works and exploitation of buildings and communication infrastructures

Chair: Joel van Cranenbroeck

**WG 6.3** Sensor fusion, data acquisition and processing techniques for moving measuring complexes

Chair: Vladimir Serevovich

**WG 6.4** Wide Area Engineering Surveys for Monitoring, Features

Determination and Environmental Management

Chair: Rémy Boudon

### **FIG Commission 7- Cadastre & Land Management**

Chair: Ms. Gerda Schennach, OVG, Austria

**WG 7.1** Fit-For-Purpose LA

Ch. Lemmen (NL)

**WG 7.2** LM in CC and PP Disaster areas

D. Páez (CO)

**WG 7.3** Crowdsourcing of Land Rights

R. McLaren (UK)

Joint WG C3/C7 3D Cadastre P. Van Oosterom (C3)

Chair G. Schennach (AT)

WG 7.4 Citizen Cadastre

G. Iván (HU)

## **FIG Commission 8 Spatial Planning and Development**

Chair: Kwame Tenadu, GhIS, Ghana

**WG 8.1** – Disaster recovery, risk management and resilience planning

Chair: Phil Rhodes NZ

**WG 8.2** – Stewardship for water, land and forest as primary resources for development

Chairs: L.Bruce Keith UK, Yvonne Sowah, Ghana

**WG 8.3** – Human settlement policies and implementation

Chair: Peter Laarrakker

**WG 8.4** –Resilient Urban Development

Chair: Dr. Frank Friesecke, Germany

**WG 8.5** – Rural development and land governance:

Chairs: Rosy Liao Rong, China & Dr.-Ing. Michael Klaus, (Germany)

## **FIG COMMISSION 10 - Construction Economics & Management**

Chair: Mr See Lian Ong, RICS, United Kingdom

**WG 10.1** – International Construction Measurement Standards

Chair: See Lian Ong

**WG 10.2** – Building Information Modelling

Chair to be appointed

**WG 10.3** – Education and Research

Chair to be appointed

## **Young Surveyors Network**

Chair: Eva-Maria Unger, OVG, Austria

**WG 1** –Social Media

**WG 2** –Events

**WG 3** –Mentoring

**WG 4** –Partnerships

**WG 5** –Policy Issues

(エ) 2019年 FIG 作業週間の開催地決定

2019年 FIG 作業週間の開催地に立候補した都市と提案団体は以下の通りである。

- ・Dublin, Ireland, Society of Chartered Surveyors, Ireland (RICS)
- ・Nairobi, Kenya, Institution of Surveyors, Kenya
- ・Geneva or Interlaken, Switzerland, geosuisse
- ・Hanoi, Vietnam, The Vietnam Association of Geodesy, Cartography and Remote Sensing (VGCR)

立候補した各団体の招致演説があり、会期中招致運動が行われた。第1回目の投票では、Dublin 8票、Nairobi 4票、Geneva or Interlaken 37票、Hanoi 26票で過半数を獲得した都市はなく、上位2都市で第2回目の決戦投票を行ったところ Geneva or Interlaken 35票、Hanoi 40票となり僅差でヴェトナムのハノイに決定した。

(オ) 名誉会員等の指名

Christiaan Lemmen (オランダ) が名誉会員に、全 FIG 会長の Mr CheeHai Teo が名誉会長に、Clarissa Augustinus (UN-Habitat) が FIG 名誉大使に任命された。

(カ) マレーシア大会で提起された問題への役員会のフォローアップ

測量者の日/週間の提案について、役員会は関心を持っているが、何をするかは各会員協会が考えて実行すべきことであり、FIG が押しつけるべきではないと考えている。どのような実行の仕方がよいのか、今大会の会員協会フォーラムでも考えを聞きたい、との報告があった。

### 3. 開会式

5月18日技術セッションの初日の朝、開会式が開催された。FIG ファンファーレの後、ホスト役のブルガリア測量士会会長の歓迎の挨拶があり、続いて FIG 会長から開会の挨拶を兼ねて 2015-2018 活動計画に関する説明があった。また、地域開発・公共事業省の大臣からビデオによる挨拶、その後ソフィア市の関係者等からの歓迎の挨拶が続いた。ブルガリア人の挨拶は基本的にはすべてブルガリア語で行われ、英語に同時通訳された。その後、ブルガリアの民族衣装を着た伝統的なダンスが披露された。

### 4. 全体集会

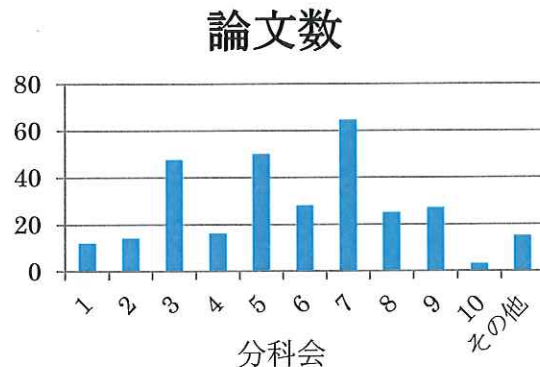
全体集会は、各分科会を横断するようなテーマで、測量者の貢献について、招待講演者により幅広く視点で議論される場である。開会式に続き、全体集会1が開かれた。ここでは、都市経営の変化への測量者の対応について、スマートシティや地理空間情報技術の役割等といった観点で議論が行われた。2日目の朝開催された全体集会2では、開発が推進されている土地の管理への測量者の対応について、土地区画整理、都市化、食糧生産、地籍調査の役割、土地管理制度の改革等の観点から議論が行われた。3日目の朝開催された全体集会3では、UN-GGIM の重要性と地域的な位置の基準の維持を踏まえた地理空間情報の管理について議論が行われた。

### 5. テクニカルセッション

テクニカルセッションの中心は、各分科会が主催するセッションで、概略 10 会場で同時に平行して開催された。分科会のセッションの発表論文総数は約 300 編であり、講



演内容はバラエティに富んでいる。分科会別に講演数を示したのが、次の棒グラフである。数だけで見れば、講演が多いのは第7分科会、第5分科会、第3分科会の順で、これらの分科会は活発に活動しているといえよう。講演数が少ないのは、第10分科会で講演数は3編にとどまっている。その他に分類したのは、フランス語によるセッションと歴史セッションの講演である。



UN-Habitat (国連人間居住計画) と FIG の合同セッションは、3日間の会期を通して開催された。ここでは主として、アフリカやアジアの開発途上国の土地、居住、都市化等の問題が扱われ、FIG が途上国に関する問題に深くかかわっていることがわかる。

また、国際地図年 2015-2016 に関連するセッションが、第3分科会と ICA (国際地図学協会) の共催により行われた。

日本の参加者が第一発表者になっている論文発表は以下の2件である。

○Basara Miyahara, Kodado Kensuke and Furuya Tomoaki (Japan): [Policy on National Geodetic Control Points of Japan - From Triangulation Control Points to GEONET](#)

○Yoshiro Nakahori (Japan): [Correlation Between the Number of Applicants for Professional Surveyors and Government Fixed Capital Formation/GDP\(%\)](#)

## 6. 会員協会フォーラム

FIG の会員協会フォーラムが、ブルガリア測量士会の主宰で開催された。出席したのは、14カ国の会員協会から25名程度であり、総会に出席した国が50以上であったことを考えると出席率は良いとはいえない。ここでは、次の3つのテーマについて意見交換が行われた。

### (ア) 「国際測量者の日」の創設について

2014年マレーシア大会で提案された本件については、反対意見はなく次回の2016年ニュージーランド大会で決定しても良いのではないかとという雰囲気であった。ただし、どのように測量者の日を祝うかについては、各国で同じ日に祝うべき、欧州測量者委員会 (CLGE : The Council of European Geodetic Surveyors) のように過去の著名な測量者を毎年選んで顕彰すべきというような意見もあった。

### (イ) 会員協会間の関係の改善について

協会間で支援したり協働したりするためお互いの関係を改善すべきである。例えば、測量者が過剰な国と不足する国があれば、過剰な国の測量者が不足する国に行って仕事をするとようなことが出来たら良いのではないかと、FIG の Web サイトに各協

会の情報を掲載しても良いのではないかと、というような意見があった。

(ウ) FIG 運営について変更あるいは改善すべき点について

会員協会であることの利益が何なのかもっとはっきり見えるように広報活動を強化すべきではないか、測定の経験が少ない国に対して FIG がもっと支援しても良いのではないかと、といった意見が交換された。

7. 会員協会会長会議

FIG 会長の主宰により約 49 の会員協会の会長又は代表が出席して、「明日の測量士の確保」を中心とした情報や意見の交換を行った。若い測量士が減少しているという報告は、欧米各国からあった。米国からは、測量士の平均年齢は 57 歳であるという報告があり、又欧州では小中学生に測量に興味を持ってもらえるような催しをしている等の報告があった。

8. 第 3 回青年測量者ヨーロッパ大会

第 3 回青年測量者ヨーロッパ大会が作業週間の前日 5 月 16 日に、建築大学土木測量学部において開催された。20 か国から約 50 名の参加者があった。日本から 2 名が参加した。開会式は、FIG のポツイオウ会長、チェン副会長及びシュタイガー副会長が出席して行われた。天文学から土地の管理まで多様なトピックスについて講演や議論が行われた。

作業週間中にも青年測量者のワークショップが開催され、分科会委員長から各分科会の活動計画について説明のあと、参加者と意見を交換する等の機会があった。

青年測量者の催しへの参加者 12 名に対して、FIG 基金から参加費の補助が行われた。

9. 所感

FIG に参加するのは 2 回目になるが、知り合いが増えた。日本人が珍しいせい、発表をしたせい、理由はいろいろあろうが、ともかくだんだん FIG に溶け込んでこられたことはありがたいことである。

そうした中で思うことは、FIG では、地球規模の問題に対して測量者のなすべき役割とは何かとか、途上国の貧困問題に対応するため測量者の団体が国連と協力しようなどという議論が行われる。そのような議論は、日本測量協会の月刊「測量」にもめったに載らないことで、日本で過ごす日常で、測量者にはふつう起こりえない現象であろう。

欧米の先進国では青年測量者の不足で困っている国が沢山ある。これからの FIG の 4 年間の大テーマの一つが、次世代の若い測量士の確保である。それだけこの問題が深刻に受け止められているということである。欧米というと測量士の地位が高く、そのような問題があるとは想像もしていなかった。

ブルガリア大会中に、中国は FIG 事務局に人を常駐させる約束を交わしたと FIG のレポートに載っている。中国は、世界各国の事業に積極的に進出している国である。当然そのメリットが大きいから常駐させるのであろうが、その逞しさにはただ感心するばかりである。

FIG には、Think Globally, Act Locally という言葉がある。世界と日本の意識ギャップの大きさを感じるが、FIG での知見を日本でも生かせるよう、考える必要があると感じた。

# フォトギャラリー



総会の開始時に起立してFIGのファンファーレを聞く FIG 執行部メンバー (FIG 提供)



会長から入会証明書を受け取って挨拶する 国土地理院の宮原氏 (中堀撮影)



分科会の活動計画を説明するために登壇した各分科会と YSN の委員長 (FIG 提供)



総会の参加者 (FIG 提供)



開会式で挨拶する FIG 会長 (FIG 提供)



会員協会会長のミーティング (FIG 提供)



第 3 回青年測量者ヨーロッパ大会参加者の記念写真 (FIG 提供)



FIG の会場となった、国立文化宮殿の外観（写真左）と宮殿の入口（写真右）



国立文化宮殿の中で最も文化を感じられる巨大な絵画のある部屋も使用してテクニカルセッションが行われた。（写真左）会場7階テラスから見たソフィアの風景。遠くの金色の屋根はソフィアの観光の名所アレクサンドル・ネフスキー大聖堂。（写真右）



展示会の風景。企業だけでなく、2016、2017、2018年の開催地ニュージーランド、フィンランド、トルコ、2019年の開催地に立候補したアイルランドやスイスのブースもあった。

平成 27 年 7 月 28 日現在

2015-2018 期 分科会委員長 (案)

第 1 分科会 (専門職の実務)	募集中
第 2 分科会 (専門職の教育)	中堀 義郎 (日本測量協会)
第 3 分科会 (空間情報の管理)	平田 更一 (日本大学)
第 4 分科会 (水路測量)	金澤 輝雄 (水路協会)
第 5 分科会 (測位と測定)	宮原 伐折羅 (国土地理院、測地系担当) 福島 芳和 (パスコ、地図系担当)
第 6 分科会 (応用測量)	募集中
第 7 分科会 (地籍測量と土地の管理)	海津 優 (国土舘大学)
第 8 分科会 (空間の計画と開発)	募集中
第 9 分科会 (不動産の評価と管理)	募集中
第 10 分科会 (建設の経済と経営)	募集中
第 11 分科会 (青年測量者ネットワーク)	藤井 十章 (日本土地家屋調査士会連合会)

注.

1. JFS の分科会委員長は、各国の FIG の分科会窓口として FIG に登録される。ただし、WG に参加するなどアクティブなメンバーでないと、FIG から直接連絡が来ることはほとんどない。
2. FIG に登録されている各国の分科会の代表の数は、2 名以上の場合もありまちまちである。

平成 27 年 7 月 28 日

## 平成 26 年度編集報告

### 概要

日本測量者連盟ホームページに FIG 関連の記事を掲載する等の広報活動を行った。また、平成 27 年 1 月に日本測量者連盟ホームページを全面改訂した。

### ○掲載記事の一覧

1. 「地球規模の測地基準座標系(GGRF)に関する国連総会決議と日本の取り組み」  
宮原 伐折羅
2. 「2011 年から 2014 年の間の FIG 第 7 部会の活動について」第 7 分科会委員長 海津優
3. 「FIG 第 5 分科会活動から感じる日本の貢献の必要性」第 5 分科会委員長 塚原弘一
4. 「FIG 第 4 分科会 2011～2014 年の活動報告」第 4 分科会委員長 金沢輝雄
5. 「FIG Young Surveyors Network と日本における青年測量者の活動」藤井十章
6. 「2014 年 11 月チェコのプラハで開催された ICG-9 報告」(英文)FIG 第 5 分科会委員長
7. 高校 3 年生が FIG クアラルンプール会議に参加(月刊『測量』掲載記事)
8. FIG マレーシア大会報告(月刊『測量』掲載記事) JFS 総幹事 中堀義郎
9. FIG 第 2 分科会(教育)マレーシア大会報告(英文) FIG 第 2 分科会
10. FIG 第 5 分科会(測位と測定)マレーシア大会報告(英文) …… FIG 第 5 分科会
11. 学生数と教員の品質の相互作用 - 経緯と現状 (訳者) 第 2 分科会委員長 馬場義男  
マレーシア大会活動報告会
12. 「FIG 会議に参加して」村井 俊治
13. 「FIG 国際会議の概要」中堀 義郎
14. 「国際測量者連盟(FIG)第 25 回国際会合参加報告」宮原 伐折羅
15. 「FIG 2014 年総会出席報告」第 7 分科会委員長 海津 優
16. Young Surveyor Conference への出席報告 兵庫青年土地家屋調査士会 藤井十章  
ニュース
17. FIG 週間 2015 ブルガリア大会のプログラム案公表
18. 8000 キロを渡ったくい、オスカーくん -台風で抜けた杭が、日本からアメリカまで漂流した話  
しが FIG で大きな話題に-
19. FIG 作業週間ブルガリア大会及び第 3 回 YS ヨーロッパ大会参加者への資金援助について
20. ブルガリア大会参加登録開始のお知らせ
21. 国土地理院測地部が連携会員に、(株)リプロが企業会員に  
お知らせ等
22. 「2015 FIG 大会のお知らせ」FIG 事務局

23. FIG ブルガリア大会 2015 までにアジアで予定されている FIG 主催又は共催の会議
24. FIG 作業週間「SOFIA 2015」のご案内・論文募集(日本語版) JFS 事務局
25. 「ブルガリア大会論文募集」(英文) FIG 事務局
26. FIG 最近の出版物 JFS 事務局

#### ○日本測量者連盟のホームページの改訂

平成 26 年後半からホームページの改訂準備を進め、平成 27 年 1 月に新しいホームページに改訂を行った。そのポイントは次のとおりである。

1. トップページのデザインを新しくした。
2. メニューの整理を行った。
3. ニュースのページを設けた。
4. 古い記事の整理をした。
5. 記事の中の間違いなどの修正をした。

事務局の手作りのページなので、技術的にはあまり高度なものはないが、各分科会のご協力を頂きながら、最新の情報を掲載できるよう努めたい。



# Japan Federation of Surveyors

## 日本測量者連盟

日本測量者連盟(JFS)は、国際測量者連盟(FIG)と連携し、幅広い測量分野での測量者の国際交流を促進します



写真は、東京都江東区の宮岡八幡宮境内にある伊能忠敬像。伊能忠敬(1745-1818)は、初めて日本全国を実測し、地図を作成したことで知られています。

<a href="#">ニュース</a>	<a href="#">FIG会議報告</a>	<a href="#">分科会情報</a>	<a href="#">イベント情報</a>	<a href="#">ライブラリー</a>	<a href="#">FIGの概要</a>
<a href="#">会員のひろば</a>	<a href="#">加盟団体</a>	<a href="#">法人会員</a>	<a href="#">入会案内</a>	<a href="#">JFSの概要</a>	<a href="#">お問い合わせ先</a>

### ■ 新着情報

- New!**  
[「地球規模の測地基準座標系\(GGRF\)に関する国連総会決議と日本の取り組み」](#)
- New!**  
[「FIG Young Surveyors Networkと日本における青年測量者の活動」 藤井十章](#)
- [「2011年から2014年間のFIG第7部会の活動について」](#)
- [「FIG第5分科会活動から感じる日本の貢献の必要性」](#)
- [「FIG第4分科会 2011～2014年の活動報告」 第4分科会委員長 金沢輝雄](#)
- [「2014年11月チェコのプラハで開催されたICG-9報告」\(英文\)](#)
- [「高校3年生がFIGクアラルンプール会議に参加」\(月刊「測量」掲載記事\)](#)
- [「FIGマレーシア大会報告」\(月刊「測量」掲載記事\) JFS総幹事 中堀義郎](#)
- [「FIG作業週間「SOFIA 2015」のご案内・論文募集\(日本語版\) JFS事務局](#)
- [「ブルガリア大会論文募集」\(英文\) FIG事務局](#)
- [「2015FIG大会のお知らせ」 FIG事務局](#)

### ■ 加盟団体

- 宮原伐折羅
- (一財)全国建設研修センター
- (一財)測量専門教育センター
- (一財)日本水路協会
- (公社)日本測量協会
- (公社)日本測量調査技術協会
- (一社)地図調製技術協会
- 日本土地家屋調査士会連合会

第7分科会委員長 海津優

### ■ 法人会員

第5分科会委員長 塚原弘一

- 内外エンジニアリング株式会社
- 株式会社シン技術コンサル
- 東京カートグラフィック株式会社
- 北海航測株式会社
- 株式会社日豊
- アジア航測株式会社
- 東亜建設技術株式会社
- 北辰建設コンサルタント株式会社
- 東邦コンサルタント株式会社
- 株式会社ニコントリンブル
- 第一航業株式会社
- 玉野総合コンサルタント株式会社
- ホコタ設計コンサルタンツ株式会社
- 株式会社リプロ

(C)copyright 2009 Japan Federation of Surveyors

## 第 11 分科会（青年測量者ネットワーク）設置について

- 目的 FIG の青年測量者ネットワーク（Young Surveyors Network, YSN）の活動に JFS として対応するため、第 11 分科会を設置する。
- 必要性 FIG における YSN のイベントには従来日本からも参加していたところであるが、最近活動が拡大し、地域毎のネットワークが形成されるようになった。各国の会員協会の YSN への参加が期待されているところである。日本の若手測量者がこれらの YSN のイベントに参加するためには、日本測量者連盟（JFS）にも FIG の窓口担当者を置き、FIG と連絡を図るとともに国内の関係者に情報を周知するなどの対応をする必要がある。

### <参考 1> FIG の YSN（2015-2018）とは

YS の定義： 3 5 歳以下の測量関連学科の学生又は職業測量者

YSN の主な目的：若い測量者のニーズを発見し、明日を担う測量者として育成すること  
尚、「明日を担う測量者の確保」は FIG の標語の 2 本柱の一つに位置づけられている。

### <参考 2> YSN の設置経緯と最近の開催状況

- 2006 ミュンヘンにおける FIG Congress で Commission1 の WG1.2 Young Surveyors として発足
- 2009 FIG イスラエル大会で”Young Surveyors Network (YSN)”に昇格
- 2012 FIG ローマ大会において第 1 回 YSN 会議開催
- 2013 第 1 回 YSN ヨーロッパ大会開催（ヨーロッパ測量者委員会共催）
- 2014 FIG マレーシア大会において第 2 回 YSN 会議開催  
第 2 回ヨーロッパ大会開催（ヨーロッパ測量者委員会共催）  
第 1 回北アメリカ大会開催（NSPS; 全国職業測量者協会共催）  
第 1 回アジア太平洋大会開催
- 2015 第 3 回ヨーロッパ大会開催（ヨーロッパ測量者委員会共催）  
サマースクール（ノッチングム大学中国と YSN の共催）

### <参考 3> JFS における YSN の広報等

2014 年 7 月の JFS 報告会及び 2015 年 3 月の JFS 講演会で藤井十章氏（日本土地家屋調査士会連合会）から YSN の活動について紹介された。JFS のホームページでも YSN の項目を追加するなどして、広報に努めている。

### <参考 4> 藤井十章氏作成の Facebook のページ「[Japan Young Surveyors Network](#)」

FIG と FIG の YSN を藤井氏が個人的に紹介しているページである。